

6 建物と融合した家具の提案

家具ショップからのプランニング発信



①S邸 リビングダイニング(別荘/丹波市) 自然素材にこだわった空間は、暖炉がフォーカルポイント。暖炉の黒、壁面のモザイクタイルの白からブラウンへの濃淡を、全体のインテリアエレメンツに落とし込んだ。

②Y邸 リビング(マンション/大阪市) ヨーロッパのラグジュアリーホテルをイメージ。「ゴールド」をテーマに、インパクトのあるカーテンや家具を受け止める内装で顧客満足を実現した。

③S邸 洗面(別荘/丹波市) LDのモチーフを踏襲した洗面台まわり。漆喰壁と自然石風タイルで「やさしさ」を表現した。

インテリアプランナーの資格が、仕事の世界を変えた

私は大塚家具でインテリアのトータルプランニングを行っております。お客様のご要望をお聞きし、家具、カーテンや照明はもちろん、リフォームのプランも作成。設備や内装に至るまでインテリア一式を提案・監理するのが私のスタイルです。大塚家具の通常の業務からすると建築の分野にまで入り込んだやり方と言え、インテリアプランナーの資格が生かされた仕事のスタイルだと思います。

資格取得は入社10年を経過してから。そこからできる仕事の範囲が大きく変わりました。私たちのショールームには、入居1カ月前ほどのお客様が来られますが、それまでの私たちの仕事というのは、間取りも建具位置も全て決まった状態の空間に、パズルのように家具をはめ込んでいくというような作業でした。決まった後に後追いをすることしかできなくて、できることは限られてしまいます。けれど、「こんな生活がしたい」というお客様のお話を聞いていると、「だったら、この間取りではないのにな」といったことがたくさんありました。

それが、インテリアプランナーになった今では、配線や間取り変更も含め、お客様が本当に希望される住まいの形を具体的にご提案できるようになりました。お客様との関係も変わりました。ぐっと距離が近づいて、引き渡し後も長いお付き合いになっています。就職するときからの夢だった「一生涯お客様とつながっていく仕事」が実現しつつあります。インテリアプランナーの資格は、私の人生を変えてくれたと感じています。

建築とインテリアをつなぐ架け橋として

現在、私のお客様は計画の段階から紹介で来られる方が殆どです。あるいは、計画前に家具の情報収集に来られるケースもあります。そういう方々には、間取り・配線・内装のプランニングからご提案ができることをお伝えし、そこから長いお付き合いが始まります。こういったやり方は、家具ショップのこれからの在り方のひとつだと感じていて、それがやりたくて建築士とインテリアプランナーの資格を取りました。

一般的に建築家やデザイナーには、自身のアイデンティティをデザインに表現してお客

猪木陽子さん

インテリアプランナー、二級建築士
IDC大塚家具
モダンスタイルショップ淀屋橋 営業



《経歴》

1976年、奈良県生まれ。立命館大学 経営学部卒業。1999年、株式会社大塚家具入社。2012年、京都造形芸術大学 通信教育学部 空間演出デザインコース卒業。インテリア販売だけでなく、プランニングのできる空間提案型営業職として活躍中。

《実績》

- ・サンヨーホームズ(株)
サンフォーリーフタウン桜ノ宮
共用部インテリア
- ・(株)サンユー都市開発
プレミアムアリーナ池田緑丘
モデルハウスインテリア
- ・(株)ゼロホーム
京都南インター展示場
モデルハウスインテリア
今出川展示場
モデルハウスインテリア
- ・(株)ハウスプランニング
放出西 モデルハウスインテリア
放出東 モデルハウスインテリア
- ・個人邸インテリア

ほか多数

様に提供することが求められると思いますが、私は反対に、お客様の住まい方をいかに具体的な形にするかというところに主眼を置いてやっています。そこが、建築家とインテリアプランナーの違いであり、役割ではないかと思っています。

私は以前から、自分の役割を建築とインテリアとをつなぐための架け橋になることだと位置づけてきました。建築とインテリアのそれぞれの専門家が分業的に動くのではなく、双方の要求をつないでより良いものをつくっていく。その時の架け橋になるような人がもっと増えていくと、お客様の満足度もより高まっていくのではないかと考えています。それができるのがインテリアプランナーだと思います。

そういう提案のしかたが浸透していくことを願って活動していますが、ハードルは高く、日々挑戦です。今後、よりインテリアプランナーが計画段階から建築家とコラボする流れができれば良いと思っています。